

平 30 年度 山口県糖尿病療養指導士講習会 第 4 回確認試験

慢性合併症 2 (大血管症、メタボリックシンドローム、その他)

1. 糖尿病患者における動脈硬化症について誤っているのはどれか。

- (1) 動脈硬化の成因にはインスリン抵抗性が関与している。
- (2) 下腿-上腕血圧比 (ABI) 0.9 未満は末梢動脈疾患の存在を示唆する。
- (3) 糖尿病患者の虚血性心疾患では胸痛を訴えないことが多い。
- (4) 糖尿病患者の脳血管障害では脳梗塞より脳出血の頻度が高い。
- (5) 糖尿病発症早期の段階では動脈硬化は認められない。

- a. (1) (2) b. (1) (5) c. (2) (3) d. (3) (4) e. (4) (5)

2. メタボリックシンドロームの診断基準に該当しない所見はどれか。

- a. LDL-コレステロールが^g 175 mg/dL
- b. 血圧が 140/78 mmHg
- c. 空腹時血糖値が^g 116 mg/dL
- d. 中性脂肪値が^g 168 mg/dL
- e. HDL-コレステロール値が^g 38 mg/dL

3. 動脈硬化の危険因子ではないのはどれか。

- a. 運動
- b. 高血圧
- c. 高血糖
- d. 脂質異常症
- e. 肥満

4. 次の記述のうち誤っているものはどれか。

- a. 糖尿病はアルツハイマー型認知症の危険因子である。
- b. 歯周病は心筋梗塞等の動脈硬化性疾患の誘因となる可能性がある。
- c. 2型糖尿病では骨密度が著しく低下し骨折リスクが増加する。
- d. サルコペニアは身体機能・運動能を低下させ糖尿病発症を助長する。
- e. 糖尿病患者では頸動脈内膜中膜複合体肥厚度（IMT）が大きくなる。

5. 非糖尿病患者（健常者）に比べて糖尿病患者でのリスクが2倍以上でないものはどれか。

- a. 脳血管疾患
- b. 虚血性心疾患
- c. 下肢切断
- d. 尿路感染症
- e. がん

糖尿病足病変とフットケア

6. 糖尿病足病変に関して誤っているものはどれか。

- a. 糖尿病足病変とは、神経障害、末梢動脈疾患（PAD）、そして感染症を含む複合病変である。
- b. フットケア教育は足病変の予防に有効である。
- c. 血糖コントロールは、足病変の発症・進展予防に有効である。
- d. 下肢切断となると、身体的喪失かつ機能的喪失のためうつ状態となることがあり、精神的ケアも必要になる。
- e. 間欠的跛行があれば末梢動脈疾患（PAD）と診断してよい。

7. 足病変のリスクが高い糖尿病患者について誤っているものはどれか。

- a. 透析患者
- b. 血糖コントロールが不十分な患者
- c. 視力障害のない患者
- d. 糖尿病神経障害が高度な患者
- e. ヘビースモーカー

8. 靴の選び方で正しいものはどれか。

- a. つま先に余裕がなく、ぴったりフィットした靴がよい。
- b. 午後は足がむくみやすいので、靴は午前中に選ぶほうがよい。
- c. 靴ひもやマジックバンドなどで調節できるものがよい。
- d. 足が靴に圧迫されないよう、ゆとりがある大きな靴がよい。
- e. 靴のいろいろな部分で曲がるやわらかい靴がよい。

9. フットケアについて正しいものはどれか。

- a. 家の中では素足でいるように指導した。
- b. 足の乾燥にクリームを塗るように指導した。
- c. 靴を選ぶときは、甲のぴったりしたものが良い。
- d. 爪は趾先に沿って丸く切る。
- e. 入浴時には、湯の温度を足で確認する。

10. 下肢切断について誤っているものはどれか。

- a. 下肢疼痛は切断により消失する。
- b. 断端ケアには、毎日断端をよく見て、断端部に清潔を保つ。
- c. 乾燥を防ぐためにクリームを使用し、断端の亀裂を予防する。
- d. 専門医や理学療法士から指導された義足装着時間や使用方法を守らせる。
- e. 義足装着歩行が困難な場合でも、廃用予防のため装着練習の継続が必要なことがある。

特殊な状況・病態時の療養指導

1 1. シックデイの対応として正しいのはどれか。

- (1) 水分摂取を心がける。
- (2) 血糖自己測定をこまめに行う。
- (3) 経口血糖降下薬はすべて継続する。
- (4) 食欲がない時は蛋白質の摂取を優先する。
- (5) インスリン治療中であればインスリンを中止する。

a. (1) (2) b. (1) (5) c. (2) (3) d. (3) (4) e. (4) (5)

1 2. 周術期の血糖管理について正しいのはどれか。

- (1) 尿ケトン陽性の場合は手術延期を考慮する。
- (2) 術中の輸液はブドウ糖を含まない製剤を使う。
- (3) 手術可否の判断は血糖値より HbA1c 値を用いる。
- (4) 経口血糖降下薬を使っている患者では必ずインスリン治療に変更する。
- (5) 術後食事が不安定な時に超速効型インスリンを食直後に投与することがある。

a. (1) (2) b. (1) (5) c. (2) (3) d. (3) (4) e. (4) (5)

1 3. 栄養不良時の栄養療法について正しいのはどれか。

- (1) 糖尿病用経腸栄養剤は消化態栄養剤である。
- (2) NST により患者の QOL の向上が期待できる。
- (3) 半固形状流動食は胃食道逆流の抑制に有効である。
- (4) 中心静脈栄養施行時には総合ビタミン剤を投与する。
- (5) 糖質は総エネルギー投与量の 60～70%を基準とする。

a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5)
d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

14. 旅行に際しての注意点について正しいのはどれか。

- (1) インスリン製剤は常温保存する。
- (2) 内服薬は旅行日数より多めに持っていく。
- (3) インスリンポンプは飛行機内で使用できない。
- (4) 時差に合わせたインスリン投与方法の変更はしない。
- (5) エコノミークラス症候群を予防するため下肢の運動をする。

- a. (1) (2) (3) b. (1) (2) (5) c. (1) (4) (5)
d. (2) (3) (4) e. (3) (4) (5)

15. インスリンに関する医療安全上の留意点について正しいのはどれか。

- (1) インスリン 1mL は 10 単位に相当する。
- (2) 静脈内投与では中間型インスリンを用いる。
- (3) 使用済みの針は医療機関に持参するように指導する。
- (4) 輸液製剤に混注する場合は専用のシリンジを使用する。
- (5) カートリッジタイプのインスリン製剤は試し打ちが不要である。

- a. (1) (2) b. (1) (5) c. (2) (3) d. (3) (4) e. (4) (5)